

令和2年第2回美祢市議会定例会【所信表明】

令和2年第2回美祢市議会定例会に臨み、議案の説明に先立ちまして、私のこれからの市政運営に取り組む所信を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様方の深い御理解と格別の御協力を賜りたいと存じます。

私は、生まれ育ったこの美祢市の閉塞感、迷走する市政に危機感を覚え、現状を打破し、市民の皆様がこの地で生活して良かったと思えるまちにしたい、との強い気持ちから、先の選挙に立候補し、市民の皆様方の負託を受けて、これからの市政運営を担わせていただくことになりました。

市長選挙におきましては、私の「行政経験」と、「国・県との連携」や「市民に寄り添うスタンス」を重視する姿勢に対して、多くの方々の期待と共感をいただいたものと思っており、こうした皆様方の負託に応えられるよう、全力で市政運営に取り組んでまいります。

さて、今後の市政運営について述べる前に、まずは、今、最優先に取り組まなければならない新型コロナウイルス感染症の問題について、申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、国内全都道府県を対象に発出されていた「緊急事態宣言」は、5月14日から25日にかけて、全ての都道府県で解除となり、「脱コロナ」に向けた第一歩が踏み出されました。

これまで、市民の皆様には、不要不急な外出の自粛や3密を避ける取組みなど、お一人おひとりが、この非常事態を重く受け止め、行動変容に取り組まれ、感染拡大の防止に努めていただきましたことに対して、市長として、まずもって市民の皆様にお礼を申し上げます。

今後におきましても、引き続き気を緩めることなく、政府が提唱する「新しい生活様式」を基本とした行動を、心掛けていただきますようお願い申し上げます。

一方、約1か月にわたる緊急事態宣言の影響により、市民生活や地域経済は大きな打撃を受け、疲弊感が漂う状況の中、多面的な支援が必要と考えているところであります。

私は、「いのちを守る」「生活を守る」「事業者を守る」「教育を守る」ことに主眼を置き、スピード感を持って、必要な対策を講じてまいる考えであります。

市民の皆様、議員の皆様とともに、美祢市の輝かしい未来に向け、この国難

ともいえる困難を乗り越えてまいりましょう。どうぞよろしく願いいたします。

続いて、これからの市政運営にあたっての基本的な考え方について申し上げます。

美祢市は、全国に先駆けて少子超高齢社会に突入し、若年女性人口と出生数の減少、人口の社会増減のマイナスなど予測を上回る人口減少となっている状況にあります。

また、少子高齢化や人口減少を背景に、地域社会を支える人材が不足するなど、深刻な課題に直面しています。

特に、本市における少子化は深刻な問題であり、閉塞感の大きな要因の一つであると捉えています。

1年間に生まれてくる子供の数が、昨年度は76人と100人を大きく下回る状況の下、将来にわたって持続発展する美祢市であるためには、本年4月からスタートした「第二次美祢市総合計画」の将来像にも掲げているとおり、出生者の減少傾向に歯止めをかけ、「子どもの笑い声が響くまち」を目指す施策を重点的に取り組む必要があると考えています。

一方で、長寿社会の実現によって、多くの高齢者は、健康であること、そして、地域社会の中で自身の居場所と役割を求めておられます。

市民一人ひとりが輝き、互いに尊敬し、認め合いながら支え合う「誰一人取り残さない」取組みこそ、幸せを実感できるまちであり、最も重要な取組みだと考えています。

そして何より、私は、まちづくりに最も大切な視点は、「人材の育成と活用」と考えています。

私が尊敬する武田信玄の言葉に「人は城、人は石垣」というフレーズがありますが、人間社会のすべての基盤は人により支えられており、人口減少、少子高齢化の進展等により社会経済環境が大きく変化している今こそ、社会の原点を見つめ直し「人づくりと活用」を進めることが重要だと思ふところでありま

す。

美祢市の最大の財産は、「まちを良くしたい」「地域を良くしたい」という思いをお持ちの市民お一人おひとりです。市民の皆様のお知恵とお力をお借りしながら、職員とともに、市政の様々な課題解決やまちづくりに粉骨砕身尽力してまいり所存であります。

とりわけ、議会の皆様としっかりと議論する中で、議会と行政がまさしく車の両輪として、市政課題の解決にともに取り組むことが肝要であると考えております。

格別のご指導とご鞭撻賜りますよう切にお願い申し上げます。

さて、私は、このたびの市長選挙におきまして「幸せを感じる美祢市の実現」、「市民に寄り添った市政の実現」を訴えてきたところであります。

そして、その実現に向けて「四つのまちづくりの約束」を掲げております。

まず、一つ目は、「安心・安全を実感する美祢市を創る」であります。

急速に進む高齢化、多発する自然災害など、市民の暮らしの安心と安全の確保は急がれる課題です。

市民の皆様が、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるまち、地域で支え合う「誰もひとりにさせないまち」の実現を目指してまいります。

基本的には、これまで取り組んできた「市立二病院の維持、強化による地域医療提供体制の確保」や、「高齢者の社会参加促進」、そして「地域包括ケアシステムの構築」などであります。

市社会福祉協議会、地元医師会等と連携しながら、地域生活支援を充実させてまいりたいと考えております。

また、新たに、通院・買い物などの移動手段の確保と免許返納後の暮らしの不安解消を図る「福祉バスの運行」や、これからの長寿社会をいきいきと暮らすため、科学的データを基に「健康寿命の延伸対策」に取り組んでまいりたいと考えています。

そして、近年は、異常気象とも言われるような猛暑や豪雨により、これまでの常識を覆すような災害が全国各地で発生しており、いつ美祢市で発生しても不思議ではありません。

こうした災害の発生に備え、市では、現在、その拠点となる施設として、新消防庁舎・消防防災センターの整備に取り組んでおり、令和3年度の完成を目指しているところであります。

この拠点整備と併せて、自主防災組織や消防団などとの連携を深め、災害時の逃げ遅れゼロに向けて、地域防災力強化を図ってまいります。

一方で、市が発令する避難情報が市民の皆様への行動に着実につながるよう、情報伝達手段の整備は、喫緊の課題の1つであり、検討を急がねばならないと考えています。

二つ目は、「美祢市の資源を活かし、新たな活力を創る」であります。

地域の活力の源は、元気な産業にあると考えています。

美祢市の最大の強み・魅力が、秋吉台を中心とする観光資源であることは、誰もが思うところです。この資源を活かして、いかに経済や雇用に、そして、地域振興に繋げていくかが、私に課せられた大きな使命の一つです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、観光は大きなダメージを受け、今後しばらくは厳しい環境ではありますが、美祢市が有する秋芳洞、カルストロード、別府弁天池など、日本最大のカルスト台地を活かした観光力の再生・強化に全力を注いでまいり所存です。

特に、新たな秋吉台科学博物館の整備に向けて、着実に前に進めてまいります。

次に、美祢市は中山間地域であり、これまでも、そしてこれからも、農業は、産業や生業というだけではなく、人々の生活と深く関わるものであり、持続可能な振興策を打ち出していかなければなりません。

美祢市の恵まれた気候と土壌のもとで育った、秋芳なし、美東ごぼう、厚保くり、椎茸など農林産品については、これまでも、高い評価をいただいておりますが、さらに、ブランド力を高め、市場での商品力を強化してまいります。

また、市域の約7割を占める森林資源の多面的機能と自然環境の保全・活用は市の重要な課題の一つです。森林環境譲与税や森林づくり県民税を活用した豊かな森林の再生と林業の収益力向上に取り組めます。

さらに、製造業では、我が国を支えるセメント関連産業や、市外から所得を稼いでいる電気機械の強みを活かすとともに、中国縦貫自動車道の二つのインターチェンジと一つのジャンクションを活かし、市長のトップセールスによる企業誘致の促進に取り組めます。

そして、商業やサービス業については、市民消費額の相当割合が市外に流出している点が、本市の弱点であり、問題点であると認識しております。地域経済の基本は内需拡大であります。市内消費を高め、「地域内でお金が回る」仕組みを検討してまいります。

三つ目は、「次世代を応援する美祢市を創る」であります。

将来の美祢市を担う子供たちは、私たちの宝です。

彼ら彼女らが健やかに育つ環境づくり、そして、若者や女性が輝く地域社会の

実現は、最も重要な施策と考えています。

価値観の多様化や働き方改革などにより、結婚や出産、子育てに対するニーズも変化してきています。結婚年齢を迎えた人たちが必要とする、出会いの機会の創出や結婚への支援を進めるとともに、安心して結婚、出産ができる雇用や住環境の整備に取り組んでまいります。

そして、子育て世代に対しては、子育てが楽しいと思える環境づくりと支援体制を、地域や職場と一体となって整えてまいります。

また、美祢市の子どもたちへの教育が、美祢市の未来のカギを握っていると考えております。

そのためにも、子どもたちが郷土の自然や文化に誇りと愛着を持ち、それらを継承・発展させようとする心と態度を育むことが、重要であると考えます。

美祢市の教育の特色の一つであるジオパーク学習の取り組みや、学校・家庭・地域が連携し、小学校から中学校、高等学校までの一貫した学び・育ちを促す「みね型地域連携教育」を推進してまいります。

さらに、児童・生徒の学力向上に向けた公設塾の開設について、新たに組み込む考えであります。

四つ目は、「ひとつになれる美祢市を創る」であります。

美祢市を夢と活力あふれるまちに創りあげていくためには、スリムで効率的、筋肉質な市の組織や体制づくりと、市民一人ひとりに行政サービスが行き届く体制の両立が必要と考えています。

これからの人口減少社会の中、そして、今回の新型コロナウイルス感染症による経済財政への影響の下では、持続可能な自治体経営の視点が、特に重要となってまいりました。

経済の縮小による税収の落ち込みや、公共施設の老朽化対策に要する経費の増加などにより、今後、非常に厳しい財政運営を強いられることは確かです。

こうした状況を踏まえて、私は、「市長報酬の削減」と「庁舎建設計画の見直し」の考えにいたったところであります。

市庁舎のうち本庁舎については、既に基本設計が発注され、各総合支所についても、現在、基本計画の取りまとめが行われているところではありますが、私は、一旦これらの事業の進捗を止め、可能な限りの事業費の削減を検討する必要があると考えています。

この件につきましては、市議会に特別委員会が設置されておりますので、今

後市議会の皆様との調整も必要となりますが、私としては、過大な借金を数の少ない次世代に背負わせるべきではないし、新型コロナウイルス感染症により、歳入面の見通しが困難な今、持続可能な財政運営の観点からもう一度検討すべき、との考えであります。

今回の選挙では、市が二分されたような形になりましたが、さまざまな御意見がある中で「美祢市を良くしたい」という気持ちは皆同じであると私は信じております。

このまちを預かるリーダーとして、市民の皆様との対話を大切にしながら、説明責任を果たし、その上で、しっかりと判断をして、市政を進めてまいります。

そして、国や県との協調や民間との協働も進め、二十年、三十年後を背負う責任世代として、必ずや、子ども、高齢者など全ての人が、ワクワクし、幸せと感じられるまち、ひとつになれるまち美祢市を実現してまいります。

以上が私の市政運営の基本的な考えですが、冒頭申し上げましたように、直ちに取り組むべきは、新型コロナウイルス感染症対策であります。

市民の皆様が一日も早く普段の生活を取り戻すことができるよう全力を傾注して取り組んでまいります。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、御理解、御協力を賜りますようお願いを申し上げます。

令和2年6月16日

美祢市長 篠田洋司